



空撮点検用ドローン『MATRICE (マトリス) 300』(DJI) と共に。

311 国際ドローン協会

技術と知識を持つ操縦士育成で ドローン活用の可能性を拡大！



一般社団法人国際ドローン協会
代表理事

榎本幸太郎 氏

Enomoto Kotaro

「ドローンを通じて関わる人の人生を豊かにする」を理念に、ドローンで建物の点検や測量、農薬散布、空撮業務などを行うほか、障害者の就労を支援する「チャレンジドローン教室」や、災害時における講習会も開催。一等・二等無人航空機操縦士の国家資格が取得できる「IDAドローンスクール」を運営している。

2022年の航空法改正に伴い、「無人航空機の操縦者技能証明制度（操縦ライセンス制度）」が国家資格として創設された。物流のインフラ問題の解決など、さまざまな場面でドローンの活用が期待される中、国際ドローン協会の榎本氏に、ドローンの果たす役割や今後の課題について伺った。

農業分野で

——国際ド

いて教えて

榎本 ドロ

「空撮」事業

リートの点

料散布など

政機関から

水産省、自

ティングす

また、ド

家資格の一

できる「IDA

ます。

——スクー

人ですか。

榎本 40代

雇用制度が

とから、老

してドロー

ました。

——資格を

ですか。

榎本 ドロ

も増え、短

すが、資格

ではありま

ト係として

学んだ後、

約2mの機

どの事故を

ら操縦する

——国内で